




本山寺本堂



指定区分	国指定重要文化財(建造物)
読みかた	ほんざんじほんどう
所在地	美咲町定宗
指定年月日	大正12年3月28日
解説	<p>本山寺は美作第一の天台宗の大伽藍で、江戸時代には津山藩の祈願所として栄えた。本堂は、南北朝時代の観応元年(1350)の建築とみられる寺内最古の建造物で、県内では長福寺三重塔に次ぐ古い木造建築物。方5間単層の檜皮葺寄棟造で、正面に江戸時代に増築された唐破風向拝が付く。柱には径50cmもの檜材の円柱が使われ、角材の虹梁[こうりょう]は丸材と間違えるほど胴張りがあるなど、豪壮な感じを与える。内陣奥正面の須弥壇上に置かれた厨子は、軒唐破風の上に千鳥唐破風を配した、珍しい入母屋造の構造である。</p>
アクセス方法	JR弓削駅から車で約15分
公開状況	外観のみ
設備	駐車場  トイレ  障害者用トイレ 
備考	

きつずページ



していくぶん (指定区分)	国指定重要文化財(建造物)
ぶんかざいめい (文化財名)	本山寺本堂
よみかた	ほんざんじほんどう
しょざいち (所在地)	美咲町定宗
していつひ (指定した日)	大正12年3月28日
せつめい	1350年(ねん)ごろの建築(けんちく)で、県内(けんない)で2番目(ばんめ)に古(ふる)い木造建築(もくぞうけんちく)です。檜皮(ひわだ)ぶきの屋根(やね)で、大規模(だいきぼ)な本堂(ほんどう)です。本山寺(ほんざんじ)には、この他(ほか)、国指定重要文化財(くにしていじゅうようぶんかざい)の三重塔(さんじゅうのとう)、石塔(せきとう)(宝篋印塔(ほうきょういんとう))や県指定重要文化財(けんしていじゅうようぶんかざい)の仁王門(におうもん)などがあり、文化財(ぶんかざい)の宝庫(ほうこ)となっています。檜皮(ひわだ)とは、植(う)えてから約(やく)80年以上(いじょう)経(た)った檜(ひのき)の皮(かわ)をむいたものです。